

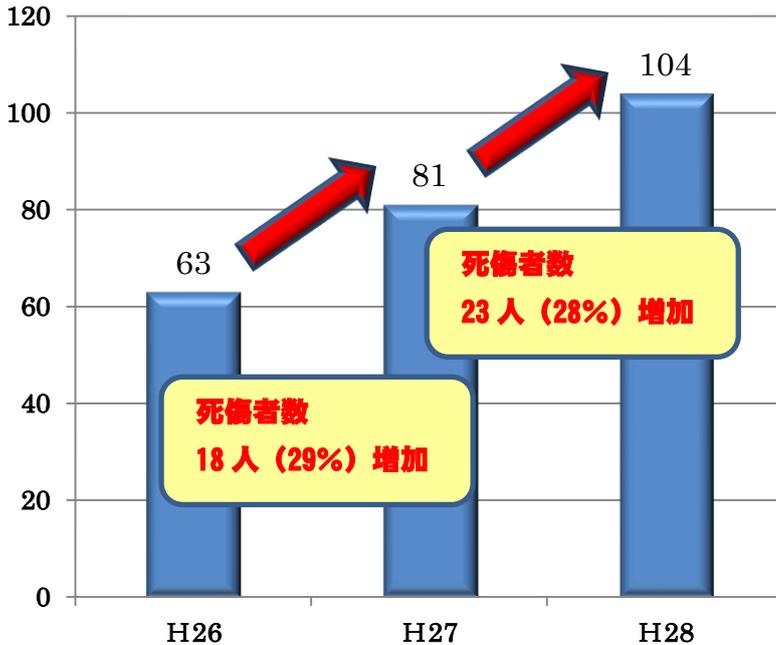
# 建設業の労働災害が増加！

～安全作業マニュアル等を再確認してください～

横浜西労働基準監督署

横浜西労働基準監督署管内の建設業の労働災害による死傷者（休業4日以上）の災害は、**2年連続で増加**し、昨年は神奈川県内の労働基準監督署で**建設業の労働災害が最も多い署**となりました。

建設業の労働災害の推移（横浜西労働基準監督署）



平成28年神奈川県における建設業の労働災害発生状況

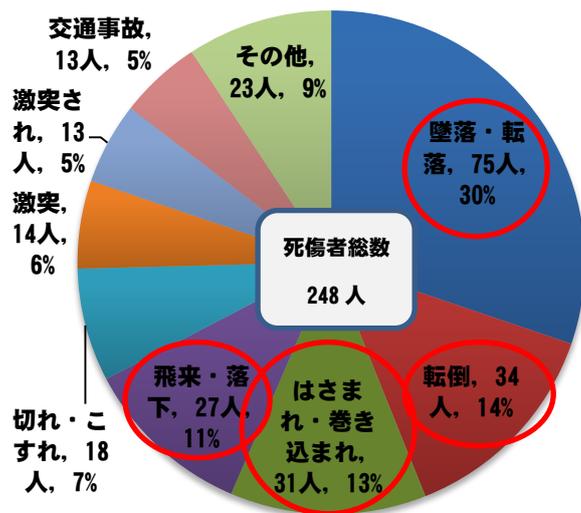
各監督署別（合計821人）

横浜西	104人	川崎南	67人
横浜北	100人	横須賀	60人
川崎北	88人	相模原	55人
厚木	85人	平塚	51人
藤沢	75人	小田原	39人
横浜南	72人	鶴見	25人

横浜西署が最も多く全体の12.7%占めています

統計資料：労働者死傷病報告（様式第23号）

## H26～28年 建設業の事故の型別労働災害発生状況



「墜落・転落」が30%占めています！  
「転倒」、「はさまれ・巻き込まれ」、「飛来・落下」を含めると約70%

## 労働災害の事例

発生状況	傷病の程度
足場の解体作業中に足場板の一部が取り外されている箇所で <b>墜落</b> した	足首の骨折 休業見込2ヶ月
躯体屋上で作業中に躯体の天窗部分に乗ってしまい、踏み抜いて <b>墜落</b> した	大腿部の骨折 休業見込4ヶ月
鉄筋の加工作業中に床に置いてあった資材につまずいて <b>転倒</b> した	肩の骨折 休業見込3ヶ月
巻上機の調整作業中にワイヤロープに軍手が引っかかってしまい、指が巻上機に <b>巻き込まれた</b>	指の切断 休業見込6ヶ月
移動式クレーンで敷鉄板を移設作業中に玉掛用具がつり上げていた敷鉄板から外れ敷鉄板が <b>落下</b> して被災者に接触した	手首の骨折 休業見込6ヶ月

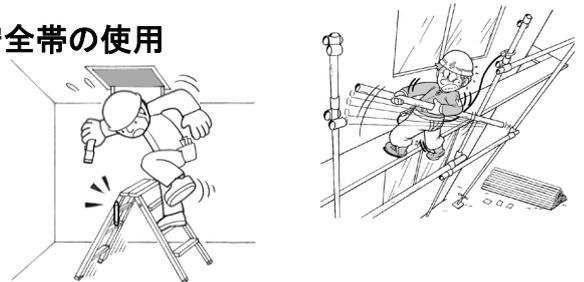
建設業における労働災害を防止するために、施工計画作成時等に**リスクアセスメント**を実施し、十分に検討した労働災害防止対策を講じるとともに、以下の事項に留意して**安全作業マニュアル等**を整備してください。

また、作業場にひそむ危険などを目に見える形にし、作業員を安全の行動に誘導する等効果のある**「安全の見える化」**に取り組んでください。

### 墜落・転落災害の防止

イラスト出典元：職場の安全サイト（厚生労働省）

- ① 高所作業における墜落・転落を防止するための適切な作業床の設置等
- ② 「足場からの墜落・転落防止の総合対策要綱（平成27年5月20日基安発0520第1号）」に基づく足場の管理
- ③ 「足場の設置が困難な屋根上作業の墜落防止対策のポイント」のパンフレットを活用した、屋根上作業における安全帯取付設備の設置等（パンフレットは厚生労働省のHPに掲載されています。）
- ④ 墜落時の衝撃を軽減することができるハーネス型安全帯の使用
- ⑤ 脚立、はしご等の設備の適切な使用方法の徹底



### 転倒災害の防止

- ① 4S（整理・整頓・清掃・清潔）活動の徹底
- ② 作業に適した靴の着用
- ③ 足元が見えにくい状況（照度不足、足元が隠れる荷を持つなど）の作業の改善
- ④ ストレッチ体操等の実施（神奈川県労働局のHPに「ころばNICEかながわ体操」が掲載されています。）



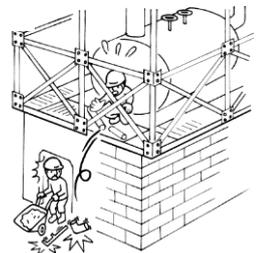
### はさまれ・巻き込まれ災害の防止

- ① 建設用機械を使用するときの作業範囲内への立入禁止措置の徹底
- ② 電動工具等の適切な使用方法の徹底



### 飛来・落下災害の防止

- ① 高所作業時の物体の落下防止措置（ネットの設置等）の徹底
- ② 物体が落下するおそれのある箇所への立入止措置の徹底
- ③ クレーン等作業時の適切な玉掛用具の使用
- ④ 資材等の荷崩れを防止するための用具（結束バンド等）の使用



### 「安全の見える化」の事例

安全通路の見える化（安全通路の確保・明示）



立入禁止区域の見える化



作業内容の見える化



誰もが安心して健康に働くことができる社会を実現するために  
神奈川県労働局 第12次労働災害防止推進計画期間中！